



「笑顔とつながり」

永田台

ユネスコスクール10周年

No.541 2月号
横浜市立永田台小学校
TEL(714)4277
令和3年1月29日



進んであいさつ
笑顔あふれる
住みよいまちに

失くしたものを数えるのではなく

副校長 中村 宏

今年度はコロナ禍の1年で、例年通りの学習や活動ができないことがたくさんありました。そして、今回の緊急事態宣言。このような状況下で、私は2014年に亡くなられた実業家の春山満さんの言葉を思い出しました。

春山さんは、年商8億円を越す実績を上げる商社の社長でした。2003年、アメリカの雑誌『ビジネス・ウィーク』で「アジアの星」に選出された人物です。日本では唯一春山さんだけが選出されました。

春山さんは、進行性筋ジストロフィーという病に冒され、首から下の筋肉が全く動かない重度の障害がありました。「僕は泣いても自分で涙を拭くことすらできない。」春山さんは自分のことをこのように話しています。筋肉が萎縮するこの病気は、まず足から動かなくなったそうです。発病したのは、24歳の時。足が動かなくなったとき「失った機能を考えても何も返ってこない。まだ、手が動くじゃないか。」と考えたそうです。症状が進行する中で、春山さんはそれまでしていた仕事をやめ、福祉関係の仕事に方向を転換します。自分の障害と向き合い、バリアフリーにつながる様々な商品開発に乗り出しました。障害のある自分にしかない感性を武器にしたのです。車いすでも商品が取り出せる自動販売機や、コインをバラッと入れることのできる自動販売機は春山さんの発案で開発された商品です。

「失くしたものを数えるな」

春山さんが残した言葉です。私は「失くしたものを数えるな」には、「残された可能性を見つめよう」という思いが込められているように感じます。

コロナ禍の上、緊急事態宣言が発令されているこのような状況だからこそ、私にはこの言葉が心に響きました。今年度永田台小学校では、コロナ禍であっても感染症対策を講じながら、でき得る活動を創造し、挑戦し続けてきました。時間の短縮、内容を精選して開催した運動会、行先を変更したり活動内容を工夫したりした各学年の遠足・体験学習、保護者の参観を取り止め、期間を1週間に延ばして開催したかがやきウィーク。これら以外にも日々の授業や学校生活で様々な工夫をしてきました。今後も失くしたものに固執することなく、児童が充実した学校生活を送ることができるよう、残された可能性を最大限に生かし、全職員一丸となって学校運営をしていきます。

今年度も、残り2ヶ月ほどとなりました。過去を変えることはできませんが、未来は自分たちの手で変えることができます。



永田台の地域・保護者・児童・職員 みんなでのりこえましょう。